

男女共同参画の最近の動きと第 66 回国連女性の地位委員会(CSW)について聞く会

【開催日】 2022 年 3 月 10 日(木) 14 : 00~16 : 00

【会 場】 オンライン開催 (Zoom)

【報告者】 三好 智子(中国支部)

内閣府男女共同参画局主催、男女共同参画の最近の動きと第 66 回国連女性の地位委員会(CSW)について聞く会に内分泌学会より参加させていただきました。

前半は、女性活躍・男女共同参画の最近の動きについて、林伴子男女共同参画局長より現状の具体的な数字を用いて、説明がありました。2021 年のジェンダーギャップ指数(GGI)は、スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」(ダボス会議)が公表しており、日本は 120 位/156 か国、「教育」と「健康」の値はトップクラスだが、「政治」と「経済」の値が低いそうです。また、令和元年の内閣府の調査でも日本の中で男女平等と思っている人は 21%であり、良い教育を受けて、健康に生きているが、男女平等ではないと認識している現状があると感じました。

特に、女性の就業者人数は増えているにも関わらず、政治家や国家公務員の人数、役員数、給与、研究者数などの格差が大きく、夫の収入が多くなると妻は専業主婦が多くなる傾向にあるということです。医師として大学職員として、女性が活躍する環境作りと共に、医学部でのキャリア教育の重要性も感じました。

また、コロナ禍の影響が特に女性に強く表れており、DV の相談件数 1.6 倍、15,000 件/月、性暴力・性犯罪件数 1.3 倍と上昇し、女性の自殺者数 7,000 人/年(勤労者もしくは主婦が増えている)と増加しているようでした。国としては、女性支援のための予算の確保、緊急避妊薬の薬局販売化の提案、議員のハラスメント教育のための動画作成などの活動について、取り組んでいるということでした。

後半は、第 66 回 国連女性の地位委員会(CSW)について、外務省総合外交政策局女性参画推進室 縄田首席事務官らより、説明がありました。2022 年の CSW の優先テーマは、気候変動および環境・災害リスク削減に関する政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメントの達成ということでしたが、防災備品(洋式トイレ・生理用品・小児用おむつ)など、女性の視点が入ることが重要ということでした。

この会に参加し、現状を具体的な数字を基に説明があり、医師としても知っておくと良い情報が共有されていました。ご興味があれば、内閣府男女共同参画局ホームページもご覧ください。

<https://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/ikenkoukan/82/index.html>